





平成30年度赤レンガ建築賞特集 上士幌町長・竹中 貢 氏 インタビュー

単なる箱物づくりでは意味がない！ 生き活きと施設が使われるように “魂”を吹き込む！

本日は貴重なお時間を割いていただき誠にありがとうございます。

この度受賞しました、赤レンガ建築賞についていくつかお伺い致します。どうぞよろしくお願致します。
まずは率直に赤レンガ建築賞受賞の喜びのお言葉をお聞かせください。

上士幌町長・竹中 貢 氏(以下:竹中氏): 赤レンガ建築賞は道内すべての建築物から創造的な部分や文化的な部分、またその建築物がどのように利用されているか、或いは意匠デザインを含めその建物がどのような歴史的価値を持つかなどが総合的に評価される極めてハードルの高い賞です。当町自慢の建物が、民間・公共施設を問わず応募された中で最高の賞を受賞したことは大変に名誉なことだと思っております。

ありがとうございます。
次に上士幌町にとって二つ目の赤レンガ建築賞受賞となりました。一つでも受賞の難しい賞だと存じておりますが平成25年、30年と間を置かずの受賞です。二つ目の受賞についてのお気持ちを聞かせください。

竹中氏: それぞれ建物をどんな想いで作ったのか、或いは利用者である町民がどんな目的で施設を利用するのか、単に箱物を作るだけではなく、施設内でどんな活動が生き活きと行われるか、そこにどれだけの“想い”や“魂”が盛り込まれているかなど、諸々の評価から二つ目の受賞が生まれたと思います。特に今回は少子高齢化と人口減少が進行する中で公共施設がどうあるべきかを重点に考えました。従来ある図書館を軸にし、学童保育所、防音効果の高い音楽ホールや陶芸など芸術・文化が楽しめる場所、或いは通常の交流をはかる会議室など様々な機能を盛り込んだことで、この施設さえあれば町内でこうした活動がすべて満たされる。そういった確かな想いが評価され本当に良かったなと思います。

ありがとうございます。
次はシンプルな質問になりますがこの施設で竹中町長のお気に入りの場所を教えてください。

竹中氏: やっぱアリーナを中心とした空間です。色々な人達が交流できるアリーナを中心とした空間がこの建物の特色の一つで、多くの人が気軽に立ち寄ることができて、ふんだんに使われている木材に癒される、また、これといった目的が無くても中学生や高校生が集い談笑する。そうした施設の運営が定着し、自然に挨拶を交わすなど幅広い交流の場になったことが非常に良かったと思います。

ありがとうございます。

上士幌町はコンパクトシティ化を目指し順調に実施されているように思われますが、現在の進捗状況及び今後の構想はございますか？

竹中氏: 大規模案件としては、道の駅が新年度着工、その後は消防庁舎移築があります。その後には役場の耐震化整備です。ただそう動く中で新たな公共物件に対するニーズがどんどん生まれてくる可能性もある訳ですね。それらに応え、子どもからお年寄りまでが住みやすいコンパクトな街を作りたいと思います。また、建物以外のインフラとして、交通ネットワークや高度な情報通信施設整備なども動いていこうと思います。街づくりというのは一定のところで完結するものではない、完結してしまうとそこで成長が止まってしまうということだから。より注目される町になっていけば、そこに新たな動きが生まれていきます。その基盤整備はおおよそ出来てきていると感じますね。

ありがとうございます。
コンパクトシティ化を目指している町村はあっても実践し、順調に形にしている町村はなかなか無いと思われませんが、動線や配置も含め、どのように議論や計画をされていますか？

竹中氏: そうですね。“生活弱者”といわれる方々の行動範囲を考えると基本的には半径400m以内に公共施設や商業施設が整っているというのが理想的と考えています。また、上士幌町は学校の統合も進んできています。街の中心から10km圏内で90%以上カバーできる訳です。『ぬかびら源泉郷』は20数kmありますが、それ以外は住民活動・生産活動のかなりの部分がこの中に納まってしまいます。これは、計画的に進めてきた成果です。現在考えているのは、その間の不便な部分の交通手段の問題です。これが解決すれば、お年寄りの交通事故や免許返納後の問題も解決していく。もう一つは情報です。ICTによる街づくりは時間軸を全く無くしてしまうということですから、これにより町内の情報収集だけでなく、民間企業のサテライトオフィスやシェアオフィス、テレワークなどの環境も整ってくる。このことで新たな人の動きが生まれてくると思います。また一方で医療介護、商店、公共サービスをひとつにして多少離れても不便のないような環境も作る。そうすると住みやすい実に豊かな農村地域になると考えています。

- 工事名 : 上士幌町生涯学習センター改築 建築主体工事
- 施行場所 : 北海道河東郡上士幌町字上士幌東3線237番地
- 施工期間 : 平成28年4月28日～平成29年5月15日
- 発注者 : 上士幌町長 竹中 貢
- 設計・監理 : 株式会社アトリエブク
- 施工業者 : 萩原・川田・橋内・米倉 経常建設共同企業体
- 現場代理人: 石塚 高章 / 現場担当者: 嶋崎 憲政
- 規模 : 木造 一部鉄筋コンクリート造 2階建 建築面積 2,455㎡ 延べ床面積 2,329㎡



地方の町村の新しいかたちですね。色々な町村が色々な課題に向かい考えられているのではないのでしょうか？
その中で上士幌町は一つの成功例として発信できる成長をしていると同時に、観光スポットや住民が増加している唯一の町だと思われませんが、今後の戦略などございましたらお聞かせください。

竹中氏: 基盤である農業が着実に生産性を上げているし、ふるさと納税など“6次産業化”も確実に浸透して非常に元気な状況にあり、まだまだ勢いが続いていくと思います。観光の軸については潜在的な北海道の魅力がまだまだあるなかで、観光客も多様化していて団体行動だけではなく色々なニーズがあります。十勝の本当の魅力はこれからますます評価されていくでしょうし、今年はタイミングよく“NHK連続テレビ小説 なつぞら”が始まります。上士幌町はナイタイテラスもあるし、今年は相当数の観光客が来るだろうと思っています。今までは『ぬかびら源泉郷』だけだったものが、これからは町全体が観光地としてどのように魅力を増していくかは、観光地域商社『株式会社karch(カーチ)』がしっかり取り組んでいます。また、バイオマス発電だけでも町内自給率100%のエネルギーがありますし、水力発電や太陽光発電も合わせると1,000%、そして食料自給率についても2,000%あります。これだけ豊富な資源がある町はそうそう無いはずですが、色々な媒体を活用しながらメッセージを発信し“物語化”していけばますます成長していけると私は確信しています。



2019
健康経営優良法人
Health and productivity



萩原建設工業は、経済産業省および日本健康会議が実施する『健康経営優良法人認定制度』において、『健康経営優良法人2019 (中小規模法人部門)』の認定をいただくことができました。

『健康経営優良法人認定制度』は、健康経営に取り組む優良な法人を“見える化”することで、従業員や求職者、関係企業や協力業者などから“従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に取り組んでいる法人”として社会的に評価を受けることができる環境を整備することを目標としている制度です。

弊社では、社員の健康で働きがいのある職場づくりを経営の重要な柱と位置付けており、長時間労働の是正に向けた各種取り組みや、全社員へ定期的なストレスチェック診断を実施している点などを評価いただいたものと認識しております。

今後も、社員の健康増進やワーク・ライフ・バランスの実現に向けて、さらなる取り組みを継続してまいります。



萩原建設工業 Facebookページは随時更新中!! こちらのQRコードより是非チェックしてみてください!!

今月の表紙

撮影: 萩原建設工業 営業部・仁藤 正憲

今月の表紙は4月の十勝の風物詩『長いもの春掘り収穫』です。長いものは春に植え付け、秋に収穫する「秋掘」と、土の中で越冬させ翌年の春に収穫する「春掘」があります。まだまだ冷え込みが厳しい4月の朝早くから作業は始まります。昇ってきた太陽の光に温められ肥沃な土からはもうもうと湯気が立ち上ります。秋掘長いものは瑞々しく、春掘長いものは越冬することにより熟成し、旨味や各成分が凝縮され濃厚なコクが楽しめます。これから来る温かい季節に向けて『十勝川西長いもの』で滋養強壮しませんか?



ここがみどりの世界。

NAITAI TERRACE
ナイトイテラス

2019.6.3 (土)
GRAND OPEN

2019年4月27日(土) 先行オープン
物販、軽食、トイレ、テラス部分の営業を開始します
2019年6月3日(月) 全面オープン
レストランを含めすべての営業を開始します

お問い合わせ | 株式会社 karch (カーチ) 北海道河東郡上士幌町字上士幌東3線238番地 上士幌町役場内 TEL・FAX/01564-7-7777 <http://www.karch.jp>

